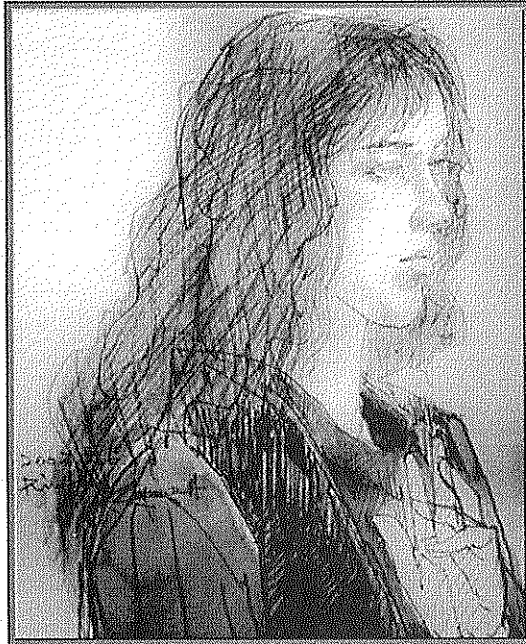


第 27 号
平成 14.3.31 発行
編集 京都教育大学
保健管理センター

CAMPUS HEALTH



— 保健管理センター業務予定 —

定期健康診断

4月2日(火)	2・4回生以上、大学院・特専	女子
4月3日(水)	2・4回生以上、大学院・特専	男子
4月4日(木)	1・3回生、外国人留学生	女子
4月5日(金)	1・3回生、外国人留学生	男子

— 「いまどきの宮澤賢治」 —

宮澤賢治は1896年に岩手県花巻市に生まれ、自らで「イーハトーブ」と名付けたドリームランド岩手の農業改革に37年の短い人生を捧げ、その死後、草野心平や高村光太郎らの紹介によって無名の作家であった賢治は「農聖」とも呼ばれる偉人として知られるようになりました、とは表向きの賢治でして、実像の賢治を現代に登場させれば、チャバツに鼻ピアスといったいでたちの若者であったと思います。賢治は現代若者の先駆的存在で、石川啄木のいう(高等)遊民、ひところのプー太郎、そしていまどきのフリーターでありました。天然のバラサイトシングル癖に加え、萱ぶきの小屋に籠もりながら天候や近隣住民の心配をしても1日4合の飯代のことは考えにも及ばないデクノボー症候群を示し、シンガーソングライターのまねごとをしたり、ギンギンの「洋楽」を蓄音機に咆哮させながら、パーチャルランド「イーハトーブ」で「オタク」をしていたのです。流行には敏感で、東京に度々、出かけてはミイハアをしていました。ただコンプレックスが強く、自意識過剰から周囲の目を気にしてやたらと気遣う青年でしたが、その反動からかとても過激な集団にノリノリになり、「世界全体が幸福にならなければ個人の幸福はあり得ない」どころか、「八紘一宇」の世界侵略の片棒をかつぎかねない危うい若者でもありました。賢治は4年間、稗貫農学校(現花巻農業高校)で教師をしていました。賢治の自由な発想の授業は今や伝説にもなっていますが、それは賢治がゲーセン感覚で授業を楽しんでいたからです。私は、二宮金次郎的ではないこのような賢治が好きです。賢治の人気はこんなところにもあるのではないのでしょうか。さて皆さんはいかがですか。

業務案内

健康相談、カウセリング

◎健康相談

☆カウセリング

	月	火	水	木	金
AM10:00~12:00	◎☆ 管理医			◎☆ 管理医	
PM 1:00~3:00			☆ センター教官		◎ センター教官

上記健康相談、カウセリングの曜日、時間に予約申込みをしてください。

申込用紙はセンター内にあります。

(TEL075-644-8172)

応急処置

月～金 9:00～17:00 (但し、12:00～13:00は除く。) (TEL075-644-8170)

健康診断証明書は大学会館談話室に設置の証明書自動発行機で即時発行されます。

(但しすべての項目を受検した者のみ)

指定用紙の場合は、今までどおりセンターで発行できます。

平成 14 年度健康診断について

平成 14 年度の健康診断は、下記の日程で実施しますので、必ず受診してください。

実施日	受付時間	対 象	性別
4月2日(火)	13:00～ 14:00	2・4回生以上・大学院・特専	女
4月3日(水)	13:00～ 14:00	2・4回生以上・大学院・特専	男
4月4日(木)	13:00～ 14:00	1・3回生、外国人留学生	女
4月5日(金)	13:00～ 14:00	1・3回生、外国人留学生	男

※ 胸部間接撮影は、別日程になるため注意してください。

なお、上記の日程で受検できない学生は、事前に学生課⑦窓口申し出てください。

(TEL 075-644-8165)

実施項目 胸部間接撮影、体内脂肪率、身長、体重、胸囲（卒業・終了予定者）、
視力色覚（卒業・終了予定者）、血圧、内科検診、検尿

検尿については、容器を3月22日(金)より、保健管理センターで渡しますので、受検前日までに受け取り、学籍番号、氏名などを記入し、受検日当日朝一番の尿を採取し持ってきてください。

健康診断証明書について

定期健康診断（全検査項目）及び胸部間接撮影を受検していないと、就職や対外試合及び大学院入試の場合の健康診断証明書の発行はできません。健康診断に関する質問等は、保健管理センターまでってください。

保健管理センター
のホームページはこちら

保健管理センターのホームページ

<http://gakusei.kyokyo-u.ac.jp/uhc.htm>

ぜひ、ご覧ください。



私と健康といえば、思い出すことが一つある。それは5年程前の入院経験である。

それまで、体は健康なものだとかってに思いこみ、特に注意したことはなかった。入院数ヶ月前に東京オリンピックセンターに仕事で行った。その時妙に体がだるく足が抜けるように感じた。いつもと違うなと思ったが特に気にもしなかった。しかし、その後2ヶ月程で、急に体重が5kgも痩せた。内心いよいよやってきたかという感じはあった。

騒ぎかけたのは、非常勤で週一度行っていた病院の看護婦さん達だった。いく度ごとに「先生おかしいよ、痩せかたが」「検査したら」と言われた。家族も、「人のことばかり診ないで、自分の診察をしてもらった」といいかけた。ただし本人は、「人生なんて自分ではどうにも出来ないものなんだ」と高を括っていた。

だんだん熱も出るようになり、大学でもソファーベッドで横になることが多くなった。それでも大学や病院は休まなかった。頑張ったというより、そんなものだと思っていた。ある日病院へ行くと、主任さんが「先生これ」と検査項目を書いた紙をくれた。私は何も頼まないのに、検査の申込みがされていた。俎板の上の鯉だと思い簡単な検査は受けた。結果は異常なし。しかし、体重はどんどん減少していく。「精密検査を受けて下さい。」これが看護婦さんの声だった。

教官は癌ではないかと思っていても、直接誰も口に出されなかった。しかし、ゼミ生は言った「先生、急に痩せて癌とちがう」と。「そうかもしれないね、しかし入院してスバゲッティ症候群になるよりは、こうして君たちとも話をしておきたいし・・・宇野重吉のように仕事をやめる日が死ぬ日にしたい。大学に来なくなったらもう死んだと思ったらいいよ」と軽く言ったつもりだったが、泣く者がいた。内心しまったと思った。

家族には「たとえ癌でも入院しないし、畳の上で死にたいので、迷惑になるがよろしく頼む」と伝えた。長男が「それでよいが病気の原因だけは知りたい」と言った。一理あると思ったので、検査だけは受けることにした。

結果は、レントゲンをみるなり「すぐ入院して下さい」『クレープス(癌)?』『いいえ肺炎と思います』『肺炎なら家で抗生物質打って治すわ』『先生の年では老人性肺炎です』『俺55やで』『そうです昔55といえば老人です』『今すぐ入院・・・明日教授会がある』『先生が出席しなくても教授会は開かれます。』『府の委員長もしている』『そのため副委員長がおられるでしょう』・・・

このような遣り取りの末、医者への恫喝(?)に負けて即入院。この野郎、はつきりと癌だと言いやがれと思いつつ・・・

主治医は何も言わないが、悲しいかな私も医者なので何の検査をしているかがわかる。明らかに癌を疑っている。毎日毎日検査検査。2ヶ月後主治医曰く「先生、何も出ないのです。やっぱり肺炎です。」おかげで無事退院。

入院するまで死に対する不安はなかったが、退院後不安が強くなった。この世への執着が強くなった。人間のかなしき性である。

そのため現在は、毎日ヨーグルトと嫌いだった納豆を食べ45分の散歩をかかさないようにしている。これとお経を読む。これが私の健康法である。